

多様性が育むイノベーションの創出



琉球大学 学長

西田 睦

にしだ むつみ

琉球大学は、豊かな亜熱帯の自然と特色ある歴史・文化を誇る沖縄に立地する国立大学である。この魅力ある条件のもと、本学は多様なステークホルダーとの連携を大切にしながら、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」をキャッチフレーズに活動している。

産学官連携の取り組みとしては、医薬品や食品メーカーとの共同研究を通じた地域産業の振興を見据え、植物資源情報を整理した亜熱帯生物資源データベースの無償公開、本学の研究シーズと地域ニーズや企業ニーズを結ぶマッチングサイトの構築、地元金融機関と連携した共同研究助成事業などを進めてきた。

2020年度には、産業界および自治体との連携を強化し、地域との教育研究両面における本格的な協働による社会のイノベーションを先導するため、「琉球大学イノベーションイニシアティブ」を設置した。また、外部資金獲得力の強化が大学にとって喫緊の課題となっていることに鑑み、本学と包括連携協定を結んだ企業との産学共同研究など、「組織」対「組織」への展開を図っている。

このように考えて練り上げてきた大型研究プロジェクトの一つが、2022年2月に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）共創分野」の本格型に採択された。この採択は、私たちをたいへん勇気づけている。本プロジェクトは、「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」の構築を掲げ、「資源循環がもたらすサステイナブルな共生社会の実現」をビジョンに、沖縄を拠点とした「食」と「エネルギー」の循環社会モデルの形成を目指している。英国の科学誌ネイチャーにこのプロジェクトに関する広報記事が掲載され、世界に向けて発信することができた。さらに、2022年10月には、「COI-NEXT 地域共創分野」の育成型に、本学が沖縄市、うるま市と提案した「フード・トランスフォーメーションが結ぶ環境・観光アイランド実現拠点」が採択された。これらはいずれも多様な産学官のアクターが連携して実施するもので、緊密な連携によって大きく展開していきたいと考えている。

コロナ禍を経て、どこにいてもインターネットですぐにコミュニケーションがとれることが実感される時代となった。この条件は、沖縄を「隔離性と交流性」の点でバランスがよい地域にし、イノベーション創生のポテンシャルを高めたと考えている。本学は、ポストコロナの新しい大学の姿を見据え、デジタルトランスフォーメーション（DX）を通じて教育と学生支援・研究・医療・運営、そして働き方を大きく変革することを目指す「琉大トランスフォーメーション（RX）」推進プロジェクトを2022年8月に立ち上げた。このRX推進プロジェクトによって自らを変革しつつ、地域のポテンシャルを生かして、多様なアクターによる産学官連携でイノベーション創出に貢献していきたい。